

2024年(令和6年)5月2日 木曜日

「生徒から『生き方を学んだ』  
と言ってもらえるのが一番うれし  
かった」。能代市で「地の塩塾」  
や「秋田しらかみ看護学院」の運  
営に携わった丹波望さん(90)は先  
月、市内での講演で自身の歩みを  
振り返りこう語った。

自身の父が創設したキリスト教  
会の牧師を経て、教育活動を本格  
化。地の塩塾では中高生に英語を  
指導し、学んだ生徒は医師や教員  
など幅広い分野で活躍している。  
2021年まで理事長を務めた看  
護学院は、地域医療を支える看護  
師を送り出している。

講演では、生徒に対し自分を客

## 地方点描

### 生き方を学ぶ

観的に見つめることの大切さを伝  
えたほか、他者の否定につながる  
自己中心的な姿勢を排するよう求  
めてきたと語った。自分を超える  
ものの存在を認める宗教心の重要  
性に触れ、「絶対的なものなどな  
い」という考え方は、そう判断する  
自分自身を絶対化してしまう」と  
指摘した。

7歳の頃に太平洋戦争が開戦。  
軍国少年として育ったが、終戦を  
機に価値観が大きく揺らぎ、平和  
や他国との和解に寄与する生き方

を模索してきた。長年の教育活動  
もその一環だったとし、「時代の  
状況が『おまえはどうする』と問  
いかけ、それに答えてきたような  
人生だった」と話した。

丹波さんは今も、奉仕団体を率  
いて地域活動に取り組む人や団体  
を支援。ウクライナやパレスチナ  
の平和を願い、街頭でメッセージ  
を掲げる活動にも携わる。

今後取り組みたいことについ  
て、講演で「信仰を問わず訪れ、  
祈ることのできる場をつくりた  
い」と意欲を示した。その生き方  
に学ぶことは多い。

(能代支局長・佐藤辰)